

リーキ (LEEK)



MEGATON メガトン

特 性

早生品種で夏～年内出荷に向く。葉鞘部は太さ、長さともに非常にボリュームがある。特に冷涼地・中間地向きの品種。



LONGTON ロングトン

特 性

中早生品種で年内～年明け、春先出荷が可能。耐暑性、耐寒性に優れる。じっくり太り、長さも出るタイプ。特に中間地、暖地向きの品種。

国産リーキのニーズについて

国産リーキの品質向上に伴い、西洋料理のシェフからの評判も高まってきており、産地での生産は拡大傾向にあります。さらに直売所の新規品目として、また加工用原料としてのニーズも高まってきています。



北海道での栽培風景

リーキの料理

白根を食用とし、長時間加熱すると独特の甘味や旨味、コクが出る。ポトフ等の煮込み、スープやソースのダシなど主に西洋料理に利用される。ジャガイモとリーキを炒めてブイヨンで煮込み、裏ごしして生クリームを加えた冷製クリームスープ『ビシソワーズ』は有名なメニューの一つ。



ポトフ

nunhems  この品種は Nunhems Netherlands B.V. の育成品種です。

リーキの栽培について

リーキについて

原産地：地中海沿岸が原産のユリ科ネギ属の葉菜。現在はヨーロッパや北米、オーストラリアなどで栽培されている。ジャンボにんにくや無臭にんにくと同じ仲間。

温度：冷涼な気候と乾燥を好み、耐寒性もある。逆に高温多湿に弱い。

土壌：根の酸素要求量が大いなので、地下水位が低く水はけの良い、耕土の深い土地が最適。好適pHは7.0前後。

抽苔：タマネギと同様。ある程度成長した苗が低温にあうと花芽を分化し、その後の高温長日条件で抽苔する。

栽培のポイント

圃場の選定：日当たり良く、肥沃で耕土が深く、水はけの良い圃場を選ぶ。

良苗の確保：太さの均一な苗の育成に努め、定植する。

活着の促進：加温は禁物で、適度な土壌水分を保ち、発根を促進する。

土寄せ：倒伏防止の軽めの土寄せは生育を促進する。高温多湿下での強い土寄せは根痛みを起こし、病害の発生を助長する。また軟白長を確保する土寄せは、葉の間から葉鞘部に土が混入し、商品価値を落とすので注意する。

肥培管理：高温多湿時の無理な追肥は軟腐を招くので注意。温暖地では気温下降期からの追肥が、葉莖部肥大に効果的。

病害虫防除：育苗中のネギコガ、定植直後のネキリムシ、高温多湿時の軟腐病や黒斑病、気温下降期のヨトウムシなどに注意し、防除に努める。

育苗

播種量：株間15cmとし、畝幅より播種量を算出する。
(畝幅90cmの場合、株数は7400株程度)

発芽適温：発芽適温は15度程度。25度以上になると発芽率が低下する。適温を保ち、極度な灌水や多湿を避ける。

育苗適温：13度～20度程度で管理する。

覆土：5mm程度とする。

育苗期間：1か月半～2か月とし、葉数3枚以上、葉鞘径3mm以上を目指す。途中で垂れ葉を刈り込んでも良い。

追肥：葉色を見ながら適宜液肥を散布する。

育苗方法：地床育苗、ペーパーポット育苗、セルトレイ128穴育苗が可能。

施肥設計

- 施肥設計は地域の土質や残肥によって異なるので、現地の指導に従う。

(施肥例)	肥料名	肥料量(kg)	成分(kg/10a)		
			N	P	K
土づくり	完熟堆肥	3,000			
	苦土石灰	150			
基肥			5	26	5
追肥1回目			5	5	5
追肥2回目			10	10	10
追肥3回目			13		13

病害虫防除

- ネギに準じて行う。
- 現地の営農指導員の指示に従う。

定植

- 極端に深い植え溝は、酸欠、多湿による根痛みを起こすので注意する。
- やや乾燥気味のほうが、活着がスムーズ。
- 水はけの良い圃場では平畝とし、水はけの悪い圃場では高畝とする。
- 事前にpHの矯正と土作り、基肥施肥を実施しておく。

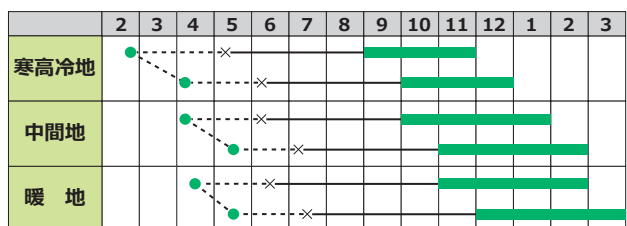
定植後の管理

- 定植後1～2か月後に追肥をかねて土寄せを行い倒伏を防止する。
- 梅雨時の軟腐には特に注意し、追肥や土寄せを控えたり、降雨後の排水に留意する。
- 気温下降期の肥大期には肥料切れに留意する。
- 軟白長を確保するための土寄せが必要な場合は、気温下降期に重視して実施する。またその時は葉鞘部への土の混入に留意する。

収穫

- 現地の収穫基準、出荷規格に準じて収穫を行う。

「メガトン」「ロングトン」共通作型表



● 播種 --- 育苗 × 定植 — 生育 ■ 収穫

下記標準栽培表を参考に貴地の気候に合わせて栽培してください。